

自彊前進

題字 西村直子

NO. 13 令和4年6月8日(水)

新潟大学附属新潟中学校 学校だより

文責 教頭

※ 自彊前進…自ら努め励み、前に進むこと
(校歌3番の文言から)

教育実習生、ようこそ附属新潟中へ

今週から教育実習が始まり、17日(金)迄の2週間が実習期間となります。新潟大学から15名の実習生が日々学んでいます。教育実習生は英語で、student teacher と言います。学生であり、先生でもあることから、実習前半は主に、担当の先生の授業を参観し、学びを深め、実習後半からは実際に授業を担当します。

知っての通り、コロナ禍の中、大学ではしばらくオンライン学習をしていました。今年度に入り、ようやく対面による授業が増えてきたようです。だからこそ、学生にとってもこの実習はとても大切な学習の機会となります。

教育実習は附属中学校の大切な使命の一つです。ここ2年はコロナ禍で、教育実習の機会も減ってしまいましたが、年間何度も教育実習生を受け入れる学校です。皆さんにとっては、学級に配属された実習生は、何十人来る内の一人かもしれません。実習生にとって皆さんは、一生思い出に残る生徒になります。「一期一会」——もともとは茶道に由来する四字熟語で、亭主・客ともに互いに誠意を尽くす心構えを意味します。実習生は、この2週間必死に学び、時に睡眠を削り、授業に臨みます。若さを生かし、はつらつと授業しようと精一杯努力すると思いますが、うまくいかないことも多いかもしれません。そんな実習生に対して、皆さんは新潟大学附属新潟中学校の生徒として、どのように誠意を尽くしますか？

2週間後、実習生が皆さんとの出会いに感謝し、教職に対して希望を抱き、大学に戻る姿を楽しみにしています。



なお、実習に際し、文部科学省の通知等を踏まえながら、大学と連携して附属学校園における「令和4年度教育実習ガイドライン」を定めました。実習参加学生は、実習開始前に抗原検査で陰性を確認しており、感染症対策を徹底して実施しています。